

花さく、うす黄色、花葉ともに香氣有り、花壇にうへてよし、時珍が云、深冬苗を生ズ、まげりをなす、五六月黄花をひらくと云、ちがひなし、宗奭が云、香胡荽に似たり、本草の註には大ク誤なりといへども、まからず、胡荽によく似たる物なり、葉形は似て、ういきやうハ極て青し、こゑんハ黒みあり、

〔農業全書十藥種之類〕茴香

ういきやうは、屋敷内など肥地をゑらび作るべし、やせ地によからぬ物なり、蒔置苗にして、菜をうゆるごとく、間を二尺ばかりに廣くうゆべし、うへ付にするもよし、其年はいまだ子少し、尤見合せ糞を用ひてよし、

〔草木育種後編下品〕茴香本 和蘭にてヘンケルといふ、二如亭群芳譜に曰、收子陰乾、宜向陽地、以糞土和土種之、又曰、十月糞土を以て根下を壅すべし、秋月種子を布き、糞水を澆ぎてよし、根と實を藥用とすべし、

〔剪花翁傳四八月開花〕茴香本 花黄色、形ち至て少く、房女郎花に似たり、開花八月下旬、方日向、地干、土山土、肥小便、下種春彼岸よし、株十月頃に分べし、よく育れば、高さ六尺にもおよぶ、剪得てもはや

く、凋むなり、升水みずの方ハ、藁にて枝葉をまぼりよせ、切口を少し切捨、冷水を逆水して、水器に挿し、暫くして水上る也、

芎藭

〔本草和名七〕芎藭、一名胡窮、一名香果、葉名蘼蕪、一名馬銜陶景注云、狀似馬銜、故以名之、一名胡果出衆名苑、和名於无奈加都良久佐、

蘼蕪芎藭一名薇蕪、一名江離本、一名股蕪出雜要訣

〔倭名類聚抄二十〕芎藭 唐韻云、芎藭弓窮、草於無奈加豆良、香草也、根曰芎藭、苗曰蘼蕪微無二音、蘼或作薇

〔箋注倭名類聚抄十〕下總本蘼作蘼、廣本同、按作蘼與證類本草、管子地員篇、淮南子汜論訓、合作蘼